

第三次河北町観光振興計画（案）

雛とべに花の里かほく



かほく紅花フォトコンテスト 2023 最優秀賞作品



令和6年3月

河北町

目 次

第1章

- 1 計画策定の目的…………… 1
- 2 計画の位置づけ…………… 1
- 3 計画期間…………… 2

第2章 河北町の観光を取り巻く現状と課題

- 1 河北町の観光の現状…………… 3
- 2 観光関係協力団体へのアンケート及び聴き取り調査から…………… 6
- 3 課題…………… 7

第3章 計画の基本方針と目標

- 1 基本方針…………… 8
- 2 数値目標…………… 8

第4章 第三次河北町観光振興計画の体系…………… 9

第5章 振興戦略

- 1 観光資源の保全・活用戦略…………… 10
- 2 観光ルート・交通戦略…………… 11
- 3 観光基盤整備戦略…………… 12
- 4 広域連携戦略…………… 13
- 5 おもてなし戦略…………… 13
- 6 新たな観光資源の活用・発掘戦略…………… 14
- 7 情報発信と収集・宣伝戦略…………… 15

第6章 観光振興の推進に向けた関係者の役割

- 1 主体ごとの役割…………… 17

■第三次河北町観光振興計画策定の経過…………… 18

■河北町観光振興計画策定委員会委員・作業部会・事務局名簿…………… 19

第1章

1 計画策定の目的

本町では、平成21年3月に「観光振興について観光に携わる皆さんと共に考え、自然、文化、歴史等、本町固有の地域特性を生かしたまちづくりを一層推進し、雛とべに花にこだわった観光振興を図るとともに、観光産業が町民所得の向上につながる、本町の重要な基幹産業となること」を目的として、「第一次河北町観光振興計画」を策定し、その後、平成27年3月に引き続き「第二次河北町観光振興計画」を策定しました。

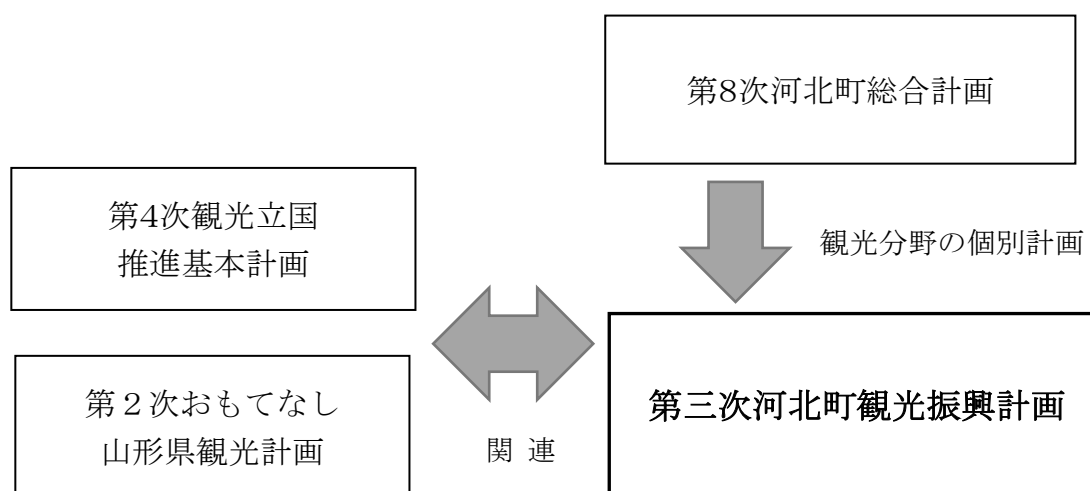
それからこれまでの間、「第7次河北町総合計画」から「第8次河北町総合計画」に更新され、また、新たな河北町民プールやアグリランドひな産直センターのオープン、各観光施設の整備、地域商社(株)かほくらし社の設立、紅花について日本遺産、日本農業遺産の認定など、町の観光振興をめぐる情勢にも変化が見受けられます。

こうした中で、山形空港に近接するなど玄関口としての本町の立地を生かしながら、「雛」と「べに花」などの歴史的観光資源と新たな観光資源、さらに地元の食文化を効果的に活用した観光振興を今後さらに推進していくことを目的として、「第三次河北町観光振興計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、河北町の観光振興の基本的な方向性と振興戦略を定めるもので、町政運営の最上位である「第8次河北町総合計画※1」の観光分野における個別計画として位置づけられるものです。

また、国の計画である「第4次観光立国推進基本計画※2」、県の計画である「第2次おもてなし山形県観光計画※3」と関連するものです。



(注釈)

※1 第8次河北町総合計画(令和3年度～令和12年度)

町政運営において、最上位に位置づけられる計画です。

この計画において、まちづくりの目標の一つである「新たな魅力を発信しにぎわいのある町」を進めるため、「地域の宝を活用した発信」を掲げています。その中で、「観光資源の発掘・整備と発信」「広域連携による観光資源の整備」の2つを示しています。

※2 観光立国推進基本計画(令和5年度～令和7年度)

平成19年1月1日施行の観光立国推進基本法に基づき策定されたものです。

観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策として、①持続可能な観光地域づくり戦略、②インバウンド回復戦略、③国内交流拡大戦略を掲げています。

※3 第2次おもてなし山形県観光計画(令和2年度～令和6年度)

平成26年4月1日施行のおもてなし山形県観光条例に基づき策定されたものです。

基本施策として、①魅力的な観光地域づくり、②効果的な情報発信、③観光交流人口の拡大、④観光産業の成長促進による地域活性化を掲げています。

3 計画期間

計画期間は、令和6年度を初年度として、「第8次河北町総合計画」の計画期間の次年度にあたる令和13年度までの8年間とします。

(原則として町の総合計画が策定された次年度に策定します。)

第2章 河北町の観光を取り巻く現状と課題

1 河北町の観光の現状

(1) 河北町の特性

① 位置

河北町は、山形県のほぼ中央、山形盆地の一角にあり、東西8km、南北11km に及んでいます。万年雪を抱く月山や、雄大な朝日連峰、さらには、樹氷で有名な蔵王を遠くに望みながら、山形県の母なる川、最上川と清流寒河江川に囲まれた、風光明媚な環境の中にあります。

② 交通

山形新幹線が停車するさくらんぼ東根駅、山形自動車道寒河江インターチェンジからは車で15分の距離にあり、東北中央自動車道東根・東根北インターチェンジからは、わずか7分のところ。高速交通網の整備により、東北中央自動車道の活用で、山形市には車で約30分、仙台市とは約90分の通勤圏となっています。

さらに、空からの表玄関となる山形空港は車で約10分のところにあり、東京便・大阪便・名古屋便・札幌便が就航しています。このように、鉄路、道路、空路の各方面において、交通の便に恵まれた立地条件となっています。

③ 歴史

この地方の開発は、平安時代初期に始まります。1390年頃、中条秀長が入部し6代にわたり谷地郷の開発に尽力し、後に、白鳥十郎長久が谷地城を築いて谷地本町を形成しました。

昭和29年には谷地町、西里村、溝延村、北谷地村の1町3村の合併により「河北町」が生まれました。早くから水田が開発され、米と紅花を中心に地域の振興を図り、最上川の舟運によって上方文化と直結しながら、優れた文化遺産を引き継いできた町です。

紅花栽培に最適と言われる寒暖の差が激しい盆地特有の内陸性気候を背景に、室町時代の昔から紅花が盛んに栽培されてきました。また、江戸時代から明治初期にかけては、紅花の集積地としても栄えました。収穫・集積された紅花は、最上川の舟運により酒田に下り、そこでいったん北前船に積みかえられ日本海を渡って敦賀に上陸。さらに、琵琶湖・淀川を経由して京都・大阪に送られました。当時は全国の生産量の半分を占めたといわれていて、最上紅花の名声は全国にとどろきました。このようにして紅花を上方に運んだ船は、返り荷として生活必需品をはじめ、多くの上方文化をもたらしました。

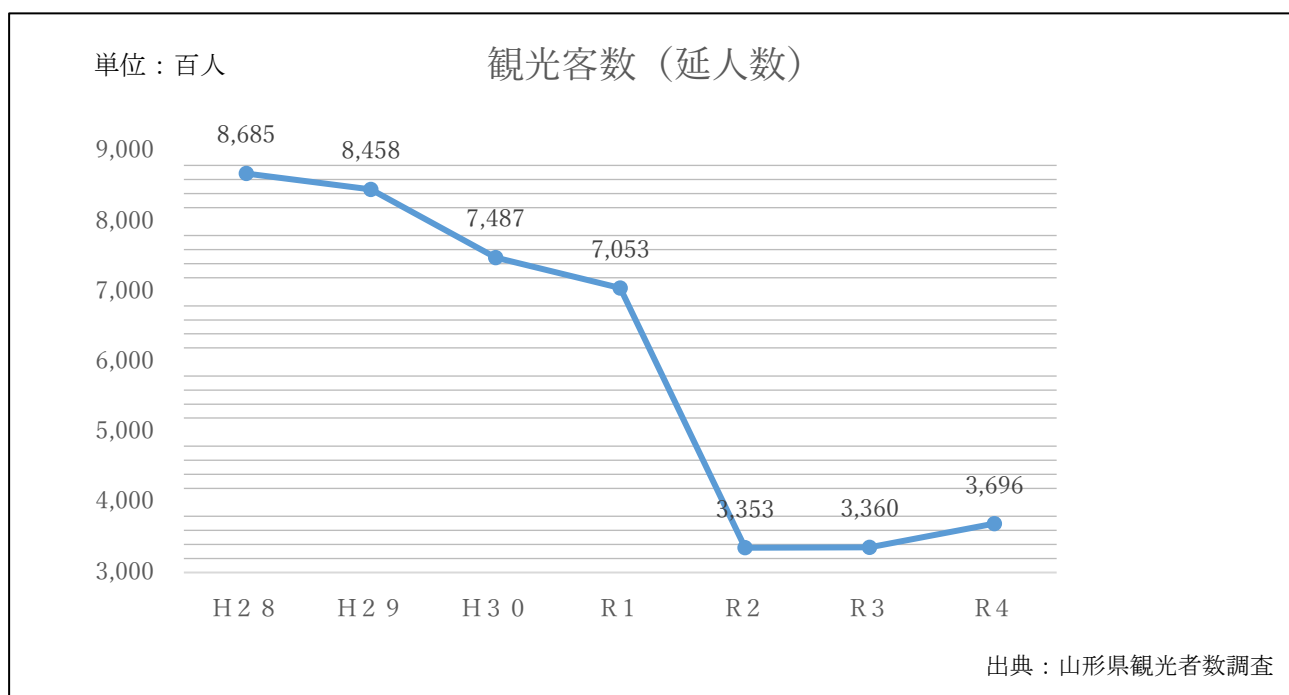
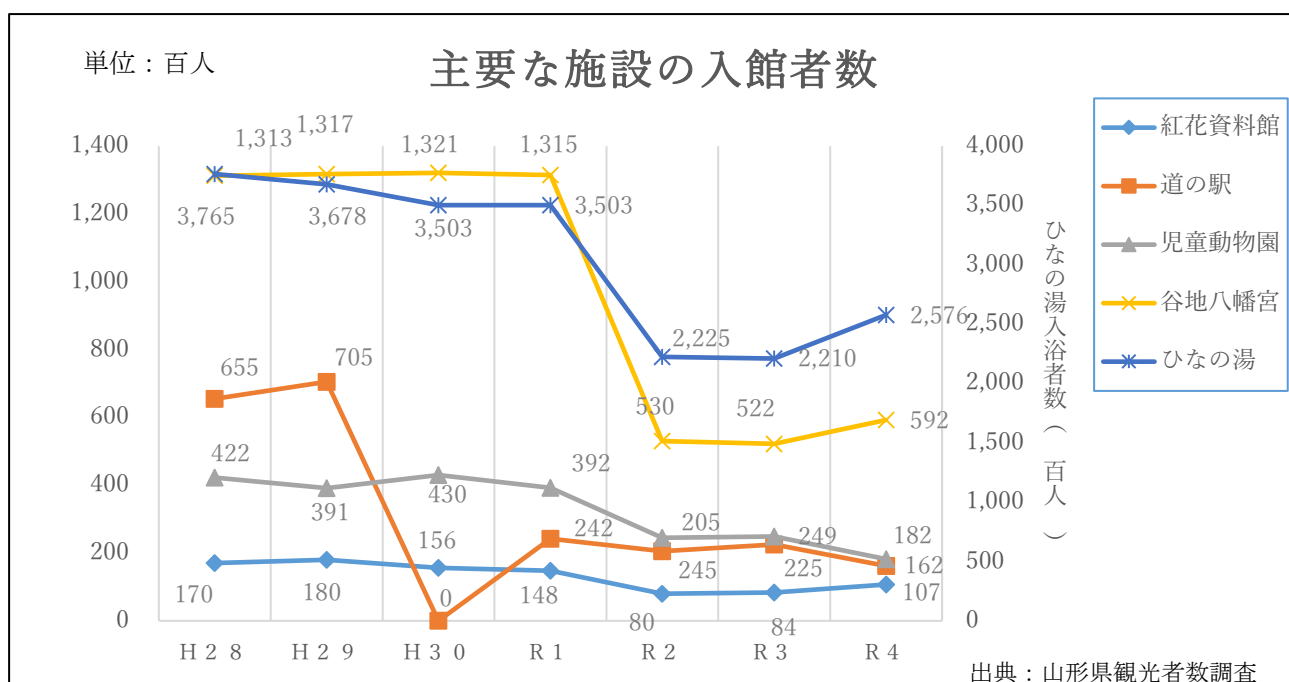
(2) 観光入込状況

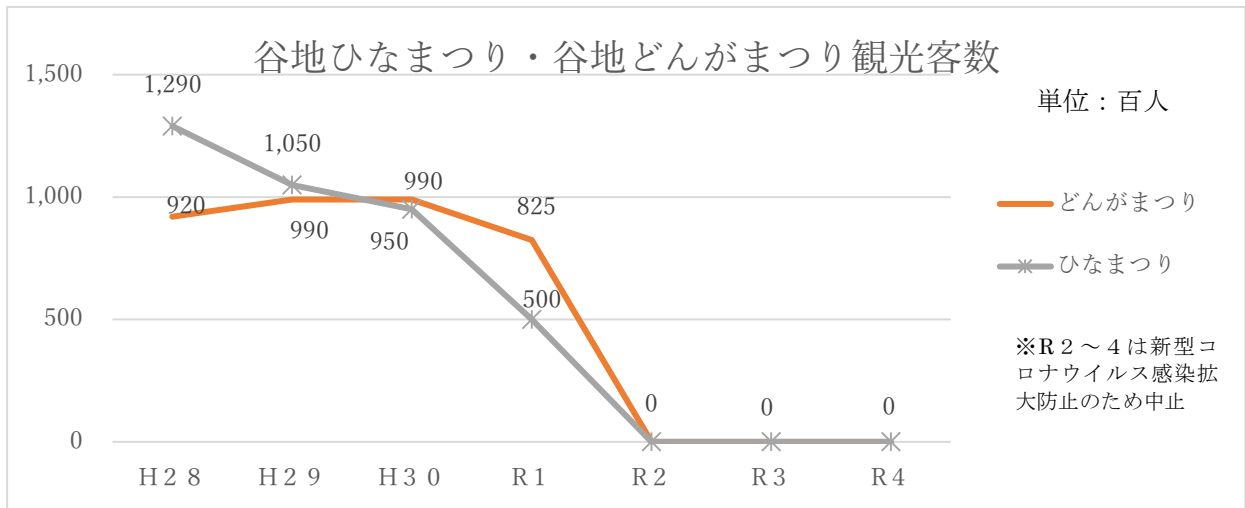
① 全体的な傾向

山形県観光者数調査によると、平成28年度の河北町の観光者数は、約86万85百人でした。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により約36万96百人となり、約57.5%減少しています。

主要な施設の入館者数は平成28年度より横ばいの傾向にありましたが、令和元年度途中より新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、どんがまつり・ひなまつり
 の中止や外出自粛により観光客数が大幅に減少することとなりました。しかし、令和4年度より規模縮小ではあるものの、中止していた観光イベントの再開等を行った結果、観光客数は回復傾向にあります。

主な施設の入館者数

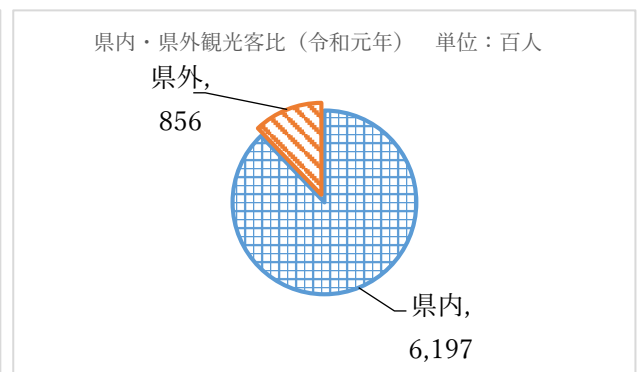
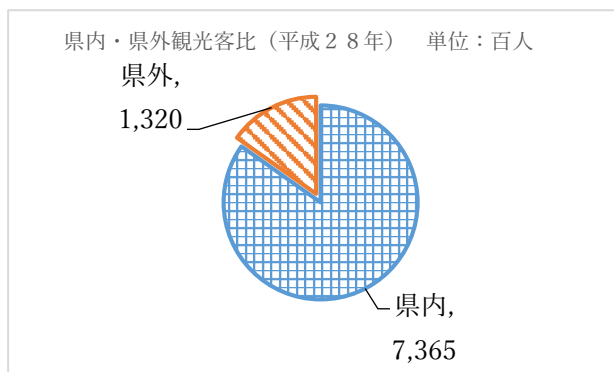




出典：山形県観光客数調査

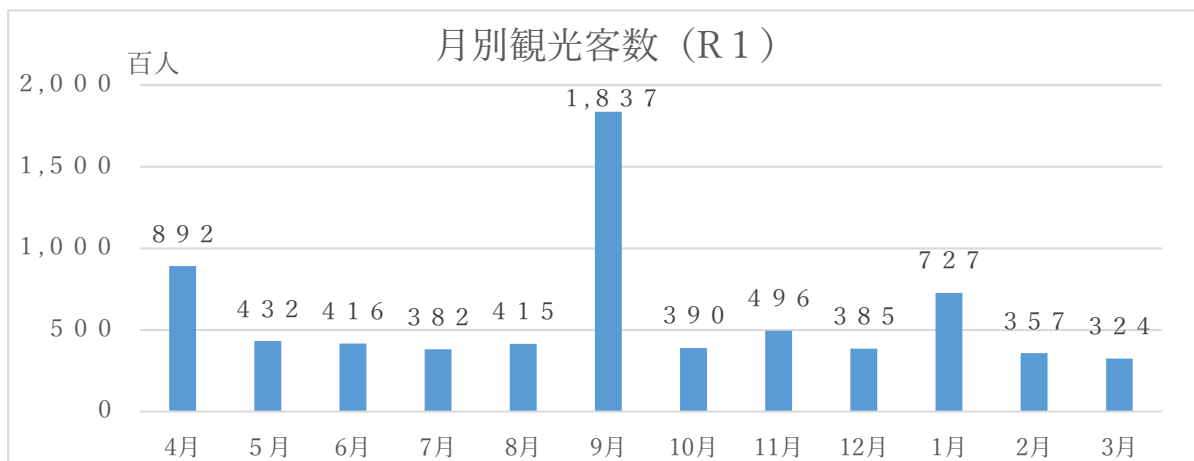
② 県内客・県外客の比率

商工観光課の統計資料によると、令和元年度の県内客・県外客の比率は、県内客が88%で、県外客が12%となっています。平成28年度の比率は、県内客が85%で、県外客が15%となっていることから、比較的、県内客が占める割合が増えています。



③ 月別の状況

令和元年度の観光客入込数を月別に見ると、「谷地ひなまつり」がある4月と、「谷地どんがまつり」がある9月は多く、その他の月は比較的、客足が鈍くなる傾向がわかります。



④ 宿泊施設

町内の公共宿泊施設としては、平成22年12月にオープンした体験型滞在施設「ひなの宿」があり、令和4年度の利用者数は8,019人となり、コロナ禍から回復してきております。

⑤ 路線バスの利用状況

町営の路線バスについては、住民の福祉向上のために、平成11年9月より運行を開始して、現在はジャンボタクシー型車両3台で町内4路線、観光客を意識した東根線1路線を運行しており、令和4年度の全利用者数は、12,962人(平成30年度の18,814人と比較して5,852人の減)となっています。

2 観光関係協力団体へのアンケート及び聴き取り調査から

観光関係協力団体に、次の各項目についてアンケート及び聴き取り調査を実施しました。

(1) 河北町のイメージについて

上位3項目は、「肉そば」、「紅花」、「ひなまつり」の順でした。

(2) 河北町で行ってみたい所について

上位3項目は、「肉そば店」、「紅花資料館」、「溝延桜堤」の順でした。

(3) 河北町の観光で満足できる点について

上位3項目は、「肉そば」、「紅花資料館」、「お祭り」の順でした。

(4) 河北町の観光で満足できない点について

上位3項目は、「宿泊施設が少ない」、「車がないと不便」、「観光資源が少ない」の順でした。

(5) 観光振興に必要なことについて

上位3項目は、「広域連携の強化・充実」、「地元名物の磨き上げ」、「二次交通の整備」の順でした。

(6) まとめ

肉そばは、B-1グランプリへの出展を契機に全国にも知られるようになり、河北町のイメージが強く根付いてきています。また、行ってみたい所に「溝延桜堤」が出てきていることから、写真や映像なども含めた情報の発信が広まってきている結果とみています。

地元資源の磨き上げを行い、より河北町らしさを前面に出し、他市町村の観光資源と組み合わせた観光の広域化を進めていくことが必要とされています。

観光関係協力団体

東日本旅客鉄道(株)、山形空港ビル(株)、山新観光(株)航空部、JAさがえ西村山旅行センター、天童温泉協同組合、村山総合支庁産業経済部地域産業経済課観光振興室、寒河江市さくらんぼ観光課、天童市商工観光課、東根市商工観光課、村山市商工観光課、朝日町総合産業課、大江町地域振興課、西川町商工観光課、(一社)寒河江市観光物産協会、(一社)月山朝日観光協会、大江町観光物産協会、朝日町観光協会、(一社)村山観光物産協会、(一社)天童市観光物産協会、(一社)東根市観光物産協会

3 課題

(1) 河北ブランドの磨き上げ

河北町には、雛、べに花、まつりなど歴史の深い観光資源に加えて、かほくイタリア野菜、かほく秘伝豆などの特産品なども生み出されており、さらにワインやナッツなど新たな特産品の開発にも取り組んでいます。また、地酒やスリッパなど質の高い特産品や地域グルメの冷たい肉そば、ソースかつ丼など、河北ブランドをさらに注目度の高いものにし、他地域との差別化を図っていくことが課題となります。

(2) 観光情報の発信

観光情報の提供については、旅行雑誌やパンフレット、テレビやラジオなどのほか、現在ではインターネットを活用した情報提供が非常に重要となっており、インターネットにおいても、質の高いホームページや手軽に情報提供が可能なSNS、デジタル広告など時代の流れに応じたものを活用し、デジタルマーケティング※を行ったより効果的・効率的な情報発信を行うことが必要となっています。

(3) 観光資源の整備

河北町の観光資源である、紅花資料館、ひなの湯、児童動物園、体験農業など、今後も継続して観光客を受け入れていくため、施設の改修や修繕だけでなく、受け入れ体制の整備も必要となります。

(4) 広域連携の取組

宿泊を伴う旅行の場合、河北町だけで観光客のニーズを満足させることは限界があり、他市町村の知名度の高い観光地を結んで広域の周遊ルートに組み込むことにより、広域観光の魅力づくりに取り組み続ける必要があります。

(5) インバウンドへの対応

日本に訪れる外国人観光客数は、令和2年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準まで回復しつつあります。また、河北町を訪れる外国人観光客も今年に入り増加しています。こうした需要を効率的に取り込むには、多言語対応や多様な決済方法の導入、受け入れ体制の強化など、インバウンドへの対応が必要となります。

(6) 町民の理解・参加

河北町を訪れていただいた方が満足し、もう一度訪れたいこと、さらに興味を持っていただき、観光振興につなげていくためには、直接的に観光に携わる人はもちろんのこと、地元に住む町民の皆様の理解と協力が欠かせません。

(注釈) デジタルマーケティング: デジタルデータを分析し、情報伝達の最適化につなげること。

第3章 計画の基本方針と目標

1 基本方針

河北町は、これまで「雛とべに花の里」としてまちづくりを進めてまいりました。今後ともこれらの貴重な歴史と文化の観光資源を前面に押し出し、また、町にある多くの観光資源を活用することはもちろん、新たな観光資源の発掘にも取り組んでいくことを観光振興の基本的な方向とし、第8次河北町総合計画に基づいた「地域の宝である歴史的文化資産や観光資源を活用した発信」を基本方針として進めてまいります。

2 数値目標

河北町の観光を取り巻く現況と課題を踏まえて、理想として描く観光客数の目標を以下のように設定します。

(単位:百人)

	施設、イベント名	4年度	7年度	9年度	11年度	13年度
①	紅花資料館	107	111	113	116	119
②	ひなの湯	2,576	2,670	2,733	2,795	2,858
③	ひなの宿	80	83	85	87	89
④	児童動物園	182	392	401	411	421
⑤	谷地八幡宮	592	614	628	642	657
⑥	道の駅	162	168	172	176	180
⑦	岩木観音	30	31	32	33	33
⑧	谷地ひなまつり	0	666	682	697	713
⑨	谷地どんがまつり	0	838	852	866	879
⑩	遊蔵	47	49	50	51	52
⑪	どんがホール	353	366	374	383	391
⑫	体験農業	1	1	2	2	2
⑬	いもこ列車	9	22	23	24	25
⑭	産直施設	1,758	1,822	1,865	1,908	1,951
	計	5,897	7,833	8,012	8,191	8,370

令和4年度

令和13年度

観光客数 5,897百人 → 観光客数 8,370百人

(約41.9%の増加を目標とします。)

第4章 第三次河北町観光振興計画の体系

第8次河北町総合計画

輝く人・町 夢と未来に挑戦するまち

〈基本方針〉

地域の宝である歴史的・文化資産や
観光資源を活用した発信

〈基本的施策〉

観光資源の
発掘・整備と発信

広域連携による
観光資源の整備

既存観光資源
の整備充実

新たな観光・
物産資源の開発

村山管内広域
観光ルートの開発

西村山広域
観光事業の推進

町内観光ルート
の充実強化

〈振興戦略〉

1 観光資源の
保全・活用戦略

2 観光ルート・
交通戦略

3 観光基盤整備戦略

4 広域連携戦略

5 おもてなし戦略

6 新たな観光資源の
活用・発信戦略

7 情報発信と
収集・宣伝戦略

第三次河北町観光振興計画（基本計画）

〈基本戦略〉

- ①伝統ある観光資源の保全と活用
- ②食文化の活用と継承
- ③河北ブランドの磨き上げ
- ④温泉の活用と魅力の再点検

- ①公共交通機関の利便性向上
- ②二次交通手段の整備
- ③円滑な道路通行条件の整備
- ④魅力ある観光ルートの整備

- ①既存施設のネットワーク化
- ②歓迎空間の整備
- ③町なかと周辺地域を活かしたまちづくり
- ④案内板等の整備・充実
- ⑤利用しやすい観光案内所の運営

- ①村山地域との連携
- ②近隣自治体との連携

- ①おもてなし観光案内体制の充実
- ②町民一人ひとりのおもてなし意識の向上
- ③観光ガイドの増員とスキルアップ
- ④顧客満足度チェックとクレーム情報の共有化

- ①観光体験農業メニューの拡充
- ②産地直売の充実
- ③特産品開発等による河北ブランドの維持・拡充
- ④観光資源の活用

- ①効果的なキャンペーンの展開
- ②多様な手段による情報発信
- ③いま、まき関東河北会や県人会等への情報発信
- ④かほく楽信大使・マスコミ特派員・インフルエンサーの活用

第5章 振興戦略

1 観光資源の保全・活用戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

河北町の観光においては、以前より温泉施設の「ひなの湯」、全国唯一の紅花資料館、町の二大まつりである「谷地ひなまつり」と「谷地どんがまつり」が多くの観光客を呼び込む主要な観光資源となっております。さらには、特産であるさくらんぼや秘伝豆、全国的にも珍しいかほくイタリア野菜などの地元農産物、地酒や冷たい肉そばやソースかつ丼などの食に関する観光資源にも恵まれています。

こうした観光資源を今後も保全・活用し、河北ブランドをいっそう高め、将来にわたって安定的・持続的な集客力を持つ地域としていきます。

(2) 基本戦略

① 伝統ある観光資源の保全と活用

河北町の代表的な観光資源である「雛」や「べに花」とともに「谷地ひなまつり」、「谷地どんがまつり」などの伝統文化を保全し、さらに魅力を活用していきます。

「雛」と「べに花」については、専門的な知識を持つ人材の登用などにより、計画的な展示品の収集などによって保全と活用を進めてまいります。

② 食文化の活用と継承

観光において、食に関する分野は特に関心が高く、メディアやSNS、口コミなどで注目を集められれば誘客や売り上げに直結する大きな観光資源といえます。河北町においては、冷たい肉そばやソースかつ丼のほか、ひなまつりの時期に食される伝統的な雛料理、紅花料理、地元産の季節の農産物であるさくらんぼや秘伝豆、かほくイタリア野菜なども観光資源として活用し、これらの食文化を次の世代に継承できるような取組を図ります。

③ 河北ブランドの磨き上げ

河北町には、雛、べに花、冷たい肉そば、さくらんぼ、スリッパなど名物や特産品が多くあります。しかしながら、これらは町外においても多くみられるようになっております。他地域との差別化を図り、今後さらに町の看板として進めていけるよう、品質の維持・向上、付加価値の向上を目指し、取り組んでまいります。

④ 温泉の活用と魅力の再点検

山形県内にはすべての市町村に温泉があり、それだけ競争相手が多い分野ではありますが、その中であっても、河北町の温泉を活用してもらっただけの条件整備について、昨今のサウナブームにも対応しながら、ソフト・ハード両面において継続的に取り組みます。

2 観光ルート・交通戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

首都圏や関西圏、東海圏からの河北町への交通アクセスとしては、JRさくらんぼ東根駅や山形空港が大きな役割を果たしています。また、車による交通アクセスとしては、東北中央自動車道東根・東根北インターチェンジが約7分、山形自動車道寒河江インターチェンジが約15分の距離にあります。さらに、町内に目を向けると、川辺や町なかの散策道やせせらぎ等も整備されています。

一方で、公共交通機関を利用して河北町へ訪れる観光客のための二次交通手段として、河北町路線バスや東根市市民バスが運行されていますが、こうした地域内の二次交通の現状については、飛行機や電車の発着時刻に合わせた運行や増便等により、さらにきめ細かなサービスの提供が望まれます。

(2) 基本戦略

① 公共交通機関の利便性向上

首都圏や関西圏、東海圏からの観光客の河北町へのアクセスを向上し、誘客を促進していくため、山形空港の定期便の利用率の維持・向上とともに、増便や新規路線の開拓をさらに働きかけます。そのほか、インバウンドにも対応したチャーター便の誘致も合わせて進めていきます。

また、鉄道と連携した、より利便性を高める取組を進めます。

② 二次交通手段の整備

山形空港やJRさくらんぼ東根駅と河北町を結ぶ路線バスについては、観光客のニーズも視野に入れた運行体制の定期的な見直しを図ります。

また、多くの集客が見込まれるイベントの際は、シャトルバスを検討します。

③ 円滑な道路通行条件の整備

観光施設への円滑なアクセスを図るため、道路や駐車場の整備、案内看板の設置や更新等に取り組みます。

④ 魅力ある観光ルートの整備

観光客が、河北町の観光資源を活かした旅を十分満喫できるような観光ルートの整備を図ります。

観光客の多様なニーズに対応して、広域的な観光ルートを設定する必要もあり、隣接する自治体や広く村山地方の自治体と連携していきます。

3 観光基盤整備戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

河北町における環境基盤の整備については、これまでまつりの改革、案内板の設置などや、賑わい空間の創出を図ってきました。今後も引き続き、来訪者の満足度向上につながる基盤整備の推進に努めます。

(2) 基本戦略

① 既存施設のネットワーク化

東の玄関口に位置する道の駅河北「ぶらっとぴあ」、観光拠点である紅花資料館、町の中心部にある児童動物園やどんがホール、さらにべに花温泉「ひなの湯」、体験型滞在施設「ひなの宿」、ひな産直センターといった既存施設の魅力づくりとネットワーク化により、施設の有効活用を図ります。

② 歓迎空間の整備

町外において常時活用されている河北町の看板は、町内への観光客の起点となる山形空港2階の出発ロビーとJRさくらんぼ東根駅西口の1階と、仙台市と河北町をつなぐ国道48号線沿いに設置されておりますが、既存の看板を維持していただくだけでなく、より効果的な空間整備を視野に入れた看板の掲示内容・設置場所等を検討します。

さらに、河北町の観光の魅力の一つである紅花の修景地についても、観光客の目にとまる環境の演出を図ります。

③ 町なかと周辺地域を活かしたまちづくり

町の中心市街地を地域間・世代間の交流施設どんがホールや遊蔵、令和4年度に完成した役場新庁舎やリニューアルされる県内唯一の児童動物園などとともに、活気ある店舗と魅力あるまちなみとして、地域住民の理解と協力を得ながらその維持を図ります。

④ 案内板等の整備・充実

町の玄関口にある道の駅河北「ぶらっとぴあ」を中心に、観光対象への行き先を示す誘導サインや、観光対象の魅力を紹介する解説サイン等の案内板の整備・充実に取り組みます。また、このような案内板のデザインや表記の統一化とインバウンドにも対応した外国語併記を推進します。さらに、遊歩道や休憩施設、トイレ、駐車場等を維持していくとともに、設置場所に関する情報を一元化して、これらの施設の有効活用を図ります。

⑤ 利用しやすい観光案内所等の運営

道の駅河北「ぶらっとぴあ」、どんがホール、紅花資料館内には、それぞれ観光案内所としての機能があり、観光の出発点となる重要な役割を担うところであることから、より利用しやすい運営を心がけます。

さらに、スマートフォンの普及や外国人観光客に対応するため、Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の整備を図っていきます。

4 広域連携戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

観光誘客の促進やインバウンドに対応するためには、河北町単独の取組だけでなく、近隣自治体や村山地域で構成された観光関係団体、庄内・置賜地域等との広域的な連携により、魅力的な広域観光ルートの開発やイベント開催を行うことによって、より一層の町内への観光誘客を進めていきます。

(2) 基本戦略

① 立地を生かした観光

河北町は、おいしい山形空港、JRさくらんぼ東根駅、東北中央自動車道といった山形県の玄関口としての立地を生かし、村山地域、さらには庄内・置賜地域等への最初の立ち寄り地として他自治体と連携し、インバウンドも含め、広域観光ルートの開発、PR活動に取り組んでいきます。

② 村山地域との連携

河北町を含む村山地域の7市7町で構成されるやまがた広域観光協議会やDMOさくらんぼ山形などにおいて、SNSや観光PR動画など効果的な情報発信、地域内観光資源の磨き上げ、関連団体と連携した旅行商品の造成やPR活動の強化、マルシェ等のイベントの開催、インバウンド向けのプロモーション事業などに取り組んでいきます。

③ 近隣自治体との連携

河北町を含む西村山1市4町と連携した山形どまんなか探訪プロジェクト会議などを活用し、スタンプラリー実施による西村山地域の観光施設の周遊の促進や、仙台圏などをターゲットにしたモデルコース整備、道の駅の連携事業、SNSを利用した広報宣伝活動に取り組んでいきます。

また、東根市との連携により、東北最大級の一つであるさくらんぼマラソン大会、東京都中央区や仙台市においての合同での物産販売など、魅力発信を進めてまいります。

5 おもてなし戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

現在、道の駅河北「ぶらっとぴあ」、地域交流センター「どんがホール」、紅花資料館において、観光案内が行われています。

河北町商工会などでは、おもてなしの充実を図るため、会員を中心にして接遇・サービス向上研修に取り組んでいます。こうした研修の受講機会を観光案内の機能を持つ施設の職員にも拡充し、より好感度の高い案内所づくりをめざします。また、町全体に来訪者に対するおもてなしの心が行き渡るよう意識の向上を図ります。

(2) 基本戦略

① おもてなし観光案内体制の充実

各観光案内所において、観光資源に関する様々な情報を収集・整理し、情報を提供するとともに、各観光情報拠点の連携により、多様なニーズをもつ観光客への案内をより充実します。

② 町民一人ひとりのおもてなし意識の向上

河北町の観光や自然・歴史、文化といった自分が暮らすまちの魅力を再認識し、誇りと愛着を持って観光客を受け入れてもらえるよう、町民に対する観光PRを強化するほか、地域学習の推進や学校教育での町の観光に興味と関心を持つような取組を進めます。

③ 観光ガイドの増員とスキルアップ

河北町では「紅花ガイド会」の会員が、予約に応じて観光ガイドを務めています。会員数の増加を図るとともに、多様化する観光客のニーズに臨機応変に対応できる人材の育成に取り組みます。さらに、観光ガイドは、観光客と接する時間が比較的長いため、おもてなしの心を含めた接客技術の向上のための研修等の受講機会の拡充を図ります。

④ 顧客満足度チェックとクレーム情報の共有化

観光客を対象とした顧客満足度調査を定期的実施し、観光振興の効果を点検するとともに、課題に応じた的確な対応策を講じます。また、観光協会を中心に、観光客から寄せられたクレームや評価を把握し、観光関係機関等に情報提供することにより、観光客のニーズや意識の情報共有を図ります。

6 新たな観光資源の活用・発掘戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

近年、自然の中で家族や友人とゆっくりと時間を過ごすアウトドアブームが注目されています。河北町の恵まれた自然環境や、農業などの観光資源を活かしつつ、紅花や雛などの歴史と文化の詰まった資源の充実・活用と、さらに新たな観光資源の発掘に取り組めます。

(2) 基本戦略

① 体験型観光メニューの拡充

体験型滞在施設「ひなの宿」を拠点として、観光体験農業の実践希望者を迎え入れているほか、全国に誇れる特産品であるさくらんぼ観光果樹園でのさくらんぼ狩りの実施や、紅花の摘み取り体験、かほくイタリア野菜の収穫体験など、農業資源を活かしたメニューの拡充を図ります。また、河北町らしい体験として注目されている地元酒蔵での

オリジナルラベル作り体験や味噌づくり体験、紅染め・紅こぎん体験など、かほくのファンづくり、地域産業や文化的資源を活用した観光メニューの拡充にも取り組みます。

② 産地直売の充実

JAさがえ西村山が平成29年度にオープンした産地直売所は、地元河北町産を中心に、旬の採れたて・もぎたての野菜、果物だけでなく、スリッパやかほくイタリア野菜等町の特産品が店内に並ぶほか、カフェが併設されており、河北町の人気の観光施設となっております。今後もさらに連携を深め、地域全体への波及を図ります。

③ 特産品開発等による河北ブランドの維持・拡充

河北町の花「紅花」を活用したかほく紅こぎんなど新たな特産品や体験メニューの開発に継続して取り組みます。

また、ワインやナッツなど地域資源を活用した新たな商品開発やブランド形成に向け、農業、商工業、観光業など各種団体組織と連携した取組を進めていきます。

東京都三軒茶屋の河北町アンテナショップにおいては、特産品の販売や地元食材料理の提供、インターネットを活用したオンラインショップなど、首都圏での河北ブランドの拡充に取り組んでいきます。

④ 観光資源の活用

県内唯一で知名度の高い動物園のリニューアルを実施し、動物のふれあい体験や、うまいもの横丁とコラボした夜の動物園、いもこ列車の公開など人気イベントの継続開催を実施します。

また、近年のアウトドアブームにも対応した最上川グリーンパークや引竜交流広場など施設の魅力づくりと活用を図ります。

7 情報発信と収集・宣伝戦略

(1) 現状と取組の基本的方向

河北町には、様々な観光資源があるものの、魅力や情報がまだ十分に知られていない状況にあります。まちの良さを知ってもらい、関心を持ち、行きたいと思ってもらえるよう、観光協会を中心に関係機関が連携し、河北町の魅力を経営的に発信し、誘客宣伝に取り組んでいくことが必要です。

(2) 基本戦略

① 効果的なキャンペーンの展開

春の「谷地ひなまつり」や秋の「谷地どんがまつり」については、町の二大まつりに相応しい、集客力の高いイベントであることから、旅行業者が旅行商品を造成する時期に

直接訪問を行うなど、キャンペーン活動を継続していく必要があります。

また、べに花まつりの際には、多くの集客が見込める近隣の空港や駅などにおいて、キャンペーンの実施に取り組みます。

② 多様な手段による情報発信

観光ポスター、パンフレット、テレビやラジオ、情報誌等各種メディアを活用し、さらに、物産販売や各種イベントにおいて、チラシの配布を行うなど積極的な情報発信に取り組みます。

また、スマートフォン等の普及による観光情報の収集形態の変化に対応するため、デジタルマーケティングも実施し、ホームページのほかSNSなどを活用した多様な情報発信や拡散を図ります。

東京都三軒茶屋にある河北町のアンテナショップにおいて、物産販売、地元食材を使った郷土料理や「冷たい肉そば」の提供、ワークショップやイベントの開催などをおして情報発信を行います。

③ いきいき関東河北会や県人会等への情報発信

首都圏在住の河北町出身者で組織された「いきいき関東河北会」の会員の方を対象に、町の観光大使的な役割を期待し、かほくファンの輪を広げ、河北町の観光PR、物産販売、イベント等の情報を発信し誘客を図っていきます。さらに、東海山形県人会や関西山形県人会、友好都市の徳島県藍住町、宮城県石巻市、ひなを通して交流のある埼玉県さいたま市岩槻区との交流をさらに深め、観光情報の提供を積極的に図ります。

④ かほく発信大使・公式マスコットキャラクターの活用

河北町にゆかりのある方を「かほく発信大使」として委嘱し、河北町の魅力ある情報発信や観光情報発信及び特産品に係る助言等を行っていただいています。そのネットワークを強化し、さらに広げるとともに、河北町の公式マスコットキャラクター「べにのすけ」による、町内外の様々なイベントへの出演やSNSを活用した情報発信など町の宣伝効果を高めていきます。

第6章 観光振興の推進に向けた関係者の役割

1 主体ごとの役割

(1) 町民の役割

町民一人ひとりが、河北町の自然、歴史、文化等に誇りと愛着を持ち、地域の魅力の向上と活性化に努めます。また、来訪者をあたたかく迎える環境やおもてなしの心を持ち、町民全体で観光振興を図っていくことが必要です。

(2) 観光関係団体・事業者の役割

観光協会は、観光客の誘致や特産品のPR、祭りやイベント等の開催や観光情報の発信に主体的に取り組んでいくことが必要です。

観光関係団体・事業者は、直接、観光客と接する機会が多く、おもてなしの心を持ち、丁寧な接客を心掛けるとともに、互いに連携し、サービス向上に努めることが必要です。

(3) 町の役割

町は、観光協会を中心とした観光関係団体・事業者との連携を密にしながら、本計画に基づいた観光振興を進めるほか、観光資源の保全、観光ルートの形成、観光基盤の整備、宣伝・広告、他の自治体との広域的な連携等に関する事業に取り組むことが必要です。

紅花資料館の見学や児童動物園での触れ合い体験など、次代を担う子どもたちに町の観光資源を知る機会や、地元で愛着が持てるような学習機会の提供に努めることが必要です。

第三次河北町観光振興計画策定の経過

期 日	会 議 名	内 容 等
R5. 5. 22	課長会議(1回目)	計画策定について
R5. 5. 25	議会 総務産業常任委員会(1回目)	計画策定について
R5. 6. 16	アンケート及び聴き取り調査開始	観光関係協力団体
R5. 8. 8	第1回作業部会	計画素案について
R5. 8. 31	第1回策定委員会	計画素案について
R5. 9. 25	課長会議(2回目)	計画素案について
R5. 10. 4	議会 総務産業常任委員会(2回目)	計画素案について
R5. 11. 1 ～11. 14	パブリックコメント	計画(案)の提示と意見募集
12月中旬	第2回作業部会	計画(案)について
1月中旬	第2回策定委員会	計画(案)について
2月上旬	課長会議(3回目)	計画(案)について
2月中旬	議会 総務産業常任委員会(3回目)	計画(案)について
3月	計画の策定	

河北町観光振興計画策定委員会委員・作業部会・事務局名簿

河北町観光振興計画策定委員会委員			
役職名	氏 名	団体名等	職 名
委員長	林 保 彦	一般社団法人河北町観光協会	会 長
副委員長	阿 部 順 紀	河北町商工会観光サービス部会長	会 長
委員	後 藤 仁	株式会社べに花の里振興公社	支配人
委員	逸 見 朋 愛	NPOかほく冷たい肉そば研究会	理事長
委員	阿 部 俊	べに花ガイド会	会 長
委員	太 田 美 郎	河北町観光さくらんぼ部会	代 表
委員	堺 田 知 樹	アグリランドひな産直センター	センター長

河北町観光振興計画作業部会		
氏 名	団体名等	職名等
江 口 隆 久	一般社団法人河北町観光協会	係 長
鈴 木 大 裕	河北町商工会	係 長
石 川 亮	株式会社べに花の里振興公社	係 長
菊 地 航 平	株式会社かほくらし社	ツアー担当
牧 野 宏 哉	河北町企画財政課総合政策・DX推進係	係 長
鈴 木 淳 子	河北町まちづくり推進課若者・女性・町民総活躍推進室	主幹兼室長
中 野 薫	河北町農林振興課農業振興係	課長補佐兼係長
佐々木 寛 典	河北町都市整備課管理係	係 長

事 務 局		
氏 名	所 属	職 名
軽 部 広 文	商工観光課	課 長
松 田 浩 一	商工観光課かほく発信・ブランド推進室地域産業振興係	室長兼係長
仲 野 和 人	商工観光課かほく発信・ブランド推進室観光振興係	課長補佐兼係長
阿 部 久 喜	商工観光課かほく発信・ブランド推進室観光振興係	総括主任
佐 藤 恵 理 子	商工観光課かほく発信・ブランド推進室観光振興係	主 事
稲 毛 新 志	商工観光課かほく発信・ブランド推進室観光振興係	主 事